

「利用者が楽しみにしている入浴を安全でリラックスできるための工夫点」

2年7組 25番 高橋 春稀

39番 山脇 結衣

実習施設：特別養護老人ホームひまわりの丘

1. 問題設定の理由

利用者にとって安らぎの場であり楽しみにしている入浴について、学校で学び入浴に対しての興味を持った。今回の実習で、入浴介助を体験することが多くあり、自立できている人の（一般浴で）安全に行うための工夫点やリラックスの方法について、多く実習できたので考察し発表する。

2. 介護の実際

・「実習を行った施設の一般浴」

立位がとれる方、座位がとれる方、歩行がある程度とれる方、自立ができて入浴をしている。

★入浴介助の順番★

①衣服は自分で脱いでもらう。

②介護者は歩行介助（手を握って脇の下に手をいれて支えていた）をしながら浴室へ誘導する。

③自分で、頭、体、陰部を洗ってもらう。（洗えないところは洗ってもらう）

④歩行介助をしながら、湯船に入ってもらう。

湯に入った時に体が冷えないように肩からタオルをかけてその上から湯をかけて全身を温めていた。

⑤約5分で上がってもらう。（好みに合わせて、入浴時間は変わる）

⑥上がり湯をかけて、足は酸性水で消毒していた。

★考察★

自力で入浴してもらうことから、利用者の出来ることが増えて残存機能を生かすことができる。

浴室で歩行介助することによって、利用者の転倒を防止して安全な入浴が行えると思う。

タオルをかけてお湯をかけることは、温熱作用によって皮膚の毛細血管が広がり、血流をよくし、老廃物などが除去され疲れが取れ、リラックスできると思う。

一般浴の利点は、自分の残存機能を生かし入浴できることや、自分の力で入浴することによって、その利用者に生きる意欲を感じさせられると思う。

そして、一般浴を続けるためには、その利用者の残存機能の低下を防ぐためリハビリ等の機能訓練をする。

入浴介助をするときには、さまざまな工夫をすることで、利用者にとって安全でリラックスした入浴が行えると思った。

参考文献 川井太加子/生活支援技術Ⅰ基本編/出版社：株式会社/メヂカルフレンド社/

平成24年2月10日ページ：p209 p213

利用者が楽しみにしている入浴を 安全でリラックスできるための 工夫点

実習施設：特別養護老人ホームひまわりの丘
2年7組 25番 高橋 春稀
39番 山脇 結衣



テーマ設定の理由

今回の実習で入浴介助を体験することが多くあり、自立できて
る人の入浴を安全に行うための
工夫点やリラックスできるため
の方法があったから。



介護の実際

「実習を行った施設の一般浴では」

座位がとれる
方



立位がとれる
方

歩行がある程度とれ
る方



★入浴の順番★



- ①衣服は自分で脱いでもらう。
- ②歩行介助（手を握って脇の下を支えながら）をしながら浴室へ誘導する。
- ③自力で頭、体、陰部を洗ってもらう。（洗えないところは介助）
- ④歩行介助をしながら、湯船に入ってもらう。湯に入ったとき体が冷えないように肩にタオルをかけてその上から湯をかけ全身を温めていた。

湯には約5分で上がってもらう。
（好みに合わせ入浴時間は変わる）



利用者の表情

笑顔でリラックスしたような表情



考察

自力で入浴→利用者の出来ることが増え
残存機能を生かせる。

浴室で歩行介助→利用者の転倒を防止でき安全
に入浴できる。

タオルをかける→温熱作用によって毛細血管が
広がり血流を良くし、老廃物
などを取り除き疲れが取れ
リラックス出来ると思う。



一般浴の利点と続けるために

利点→残存機能を生かして入浴できる。
利用者の生きる意欲を感じられる。

続けるために→残存機能の低下を防ぐ
ためリハビリ等の機能
訓練をする



謝辞

ご静聴ありがとうございました。

この場をお借りして、
ご指導頂いた実習施設のみなさん
支えてくださった先生方、家族
2年7組のみんなに
心から感謝申し上げます。



ありがとうございました。

